

令和4年4月6日

「また始まった。」が言える喜び

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

本年度、本校の入学式はありませんでしたが、令和4年度新任式、始業式を行いました。コロナ禍ではありますが、子どもたちは瞳を輝かせ、やる気満々で学校生活をスタートさせました。「また始まった。」が言える喜びを噛みしめています。同時に子供たち同様、心機一転、新たな気持ちで新学年度を迎えようと決意も新たにしました。

さて、令和4年度のスタートにあたり、昨年度の反省を生かしながら、学力向上や心の教育の推進、体力・気力の向上に意欲旺盛な教職員と共に「想像と創造」を大切にしながら取り組んで参ります。また、学校、家庭、地域の持つそれぞれの教育機能を最大限に発揮し合い、確かな信頼関係と連携のもと「子どもたちのために」を合言葉に、本年度末に行われる閉校式を迎えたいと思います。

教児共に日本一楽しいと思える学校、そして、教児共に育つ教育「楽校共育」の創造に向けて、自分にできることは何かを自問自答しながら取り組みます。

浮辺小学校の教育活動への変わらぬ御支援、御協力をよろしく申し上げます。



令和4年4月8日

想像と創造

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

現在の自分を過去や未来から眺めてみると新たな発見があるかも知れません。現在の姿をいろんな視点から見つめ直し、新たな何かを創造していく能力は、人間固有の能力なのかも知れません。人工知能（AI）には負けない各個人の個性や特性なのだと思います。

今現在、10年前の自分にどんな言葉をかけてあげられますか。逆に10年後の自分からなんと言われたいですか。過去の自分からは、「よくがんばったね。あのときの努力が報われたね。」と優しく声をかけてもらいたいし、未来の自分からも、「今の頑張りのおかげで、将来はとても幸せだよ。」と、励ましてもらいたいですね。

先行き不透明なウクライナ情勢、コロナ禍の中、こんな時代だからこそ将来に夢や希望を抱き、想像と創造という人間の人間らしい能力を大切にしていきたいものです。自分勝手な自己中心的な幸せの追求、生き方ではなく、自他共によりよく生きる道を想像し、創造していきたいものです。



令和4年4月14日

朝の感動した風景

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

本校は本年度で閉校を迎える児童数11名、変則複式の2学級の極小規模校です。

今朝、登校指導を終えて校門に戻ると、一番早くに登校してきた6年生の男子が、たった一人で校庭の草取りをしている風景が目に飛び込んできました。その姿に感心すると共に、思わず熱いものがこみ上げてきました。

早速手伝いに向かい、その子の行為に感動したことや、何気ない日常の様子を聞きながら、作業をひとまず終えました。その後、登校してきた全ての子どもたちや職員が、朝の清掃ボランティアに汗を流していました。

赴任して1年目に閉校を迎える校長として、いったい何ができるかを考える日々です。子どもたちが、閉校を前向きに、そして、発展的に捉え、夢と誇りを持って一歩前に進んでほしいと思います。職員や保護者、地域の方々と一緒に知恵を出し合いながら、充実した教育活動を展開していきたいと思います。

朝の感動する風景に思いを新たに、また、熱くなりました。



令和4年4月21日

当たり前の素晴らしさ

校長 石川 雅実

本日、PTA総会を開催しました。ふと玄関を見て、嬉しく思いました。保護者の脱いだ靴がきれいに揃って、一列に並んでいたからです。当たり前のことを当たり前に実践している保護者の行為に感動しました。

当たり前のことではありますが、その行為が嬉しくて保護者の皆さんに「玄関の靴がきれいに並んでいました。さすがです。」と賛辞を贈りました。保護者の皆さんは、ぽかんとされていました。保護者には当たり前のことだからです。このような行為を子供たちに伝えるのも学校の大切な役目です。子供たちには親の後ろ姿をよく見て、素晴らしい善行を学んでほしいと思います。

学校、家庭、地域との三者連携は、時代が変わっても重要で必要不可欠なものです。赴任して以来、保護者や地域の方々の子供たちへの深い愛情を感じます。本年度末の閉校式に向けて、保護者、職員が協力して取り組んでいくことも確認できました。とても有意義なPTA総会になりました。

令和4年4月25日

景勝地で想ったこと

校長 石川 雅実

先日、市教育長先生からお勧めされた景勝地である知覧高塚丘茶団地（茶ばっけん丘）まで足を運んでみました。本校の卒業生でもある教育長先生が、小学生時代にお別れ遠足で訪れていた場所とのことでした。薩摩富士（開聞岳）を眼前に、広大な茶畑が一望できる絶景ポイントです。雄大な景観に時を忘れるほどでした。また、昔は葦畑が広がっていたともお聞きしていました。それで、「人間はひとくきの葦にすぎない。自然の中でもっとも弱いものである。だが、それは考える葦である。」というブレイズ・パスカルの言葉を思い出しました。この雄大な景色を前にいろんなことを思索することも大切な時間になるのではないかと思います。なぜ、戦争はなくなるのか、なぜ、人は傷つけ合うのか等、ウクライナ情勢悪化のニュースを見聞きするたびに考え込んでしまいます。

機会があれば、是非足を運んでいただき、物思いにふける時間を作ってみてはいかがでしょうか。